

よりよい練馬区の図書館を求めて

----- 図書館は誰のものか -----

11月7日の区議会文教委員会は、11月21日区報で図書館業務の委託事業者募集をする旨の区当局の報告をめぐり、約1時間にわたって緊迫した審議が行われました。

結果は、残念ながら、区当局の歩み寄りがみられず 11月24日文教委員会で陳情審査の結論を出す 11月21日区報等に委託事業者募集掲載をすることは、行政上の必要からやむをえないとなりました。

よりよい練馬区の図書館をつくる会としては、「陳情の審議途中における委託事業者募集」にならずに、区民の代表である区議会文教委員会がその存在理由を示して、権威ある結論が出せるよう別紙の要請をしています。

私は、ふりかえってみて昨年8月からの会の運動-----集会を開き、寄合って知恵を出しあい、署名に立ち、会のテーゼ「私たちは、こういう図書館を望む」を創り出した力を、しみじみすばらしいと感じています。

また、区職労図書館分会・協力員労組による行革への対案「練馬区の図書館をより充実させるために」は当局と対峙する労働組合の志の高さと内容の具体性において、各方面で評価されました。そして労使交渉の砦になったのです。

図書館協力員の退職者不補充を撤回させたことは、協力員労組の団結の力によるものです。

9月30日文教委員会の審議は、すべての会派の発言により、相当掘り下げられ、委員会の空気が、図書館の現状をよしとせず、よりよい発展を求めるものでした。これは資料にもとづいて、議員の皆さんに会の姿と委託の問題点を訴えた粘りの成果ではないでしょうか。

さて、10月19日よりよい会寄合で、区職労図書館分会より、「あけぼの」10月12日号にもとづいて情報提供がありました。

基本的な立場は、直営を基本とする、大幅な委託導入が図書館サービスの改悪・低下につながることを認識するが委託の圧縮、直営部門の維持・拡大をめざすことを前提に2006年度の扱いを中心に交渉にあたるというものです。

寄合では、9月30日文教委員会の分析評価を行い、今後の対応を考えました。おおまかには、3点です。

- ・ 一歩後退は明らかだ。しかし将来的には直営を目指す方向であるから、運動内部への配慮が大切。
- ・ 委託問題関連の分会と区民との集会を持たないか。
- ・ 11月7日文教委員会で、実質的決着をつけるための方策をはかる。

この日は、NPOをどう展開するかは全くどこかへ消えた！というのが私の感想でした。

そこへ行くのはまだ……敗北をかみしめるといふことかと思ひ、委託がサービスの改悪・低下につながると言いながら、手を拱いているのかと。

11月1日「NPO設立意思表示による捨身の一手」の助言というメールが飛び込んできました。

- ・ 行政・労組・区民が手を組んでNPOを設立
- ・ NPO職員は協力員の全員移籍と新規採用による
- ・ 現在計画の営利企業を含む民間委託ではなく、全館をこのNPOだけの委託とする
- ・ 十分な準備のため委託実施を一年延期し、H18年度は常勤職員を計画通り減員し、代わりに協力員を補充採用する(これにより、経費節減効果は当初計画通りとなる)

- ・ 少なくとも、当事者がその可能性を追及する準備委員会設置の方向を、11月7日文教委員会以前に表明し関係者に申し入れて、11月21日委託事業者募集開始の状況を変えようとするものです。

会のNPO学習会は7月以来8回を重ねましたが、このような発想は生まれませんでした。この構想が学習会の中で暫く前に出ていればとの思いがあります。たしかな目と耳、柔軟な発想の大切さを改めて痛感します。

この構想のメリットは、実質的な業務委託阻止であることです。

- ・ 区、労組、区民が文字通り協働できるNPO設立の可能性
- ・ 民間営利企業委託による図書館サービスの低下はなく、一層の充実への可能性
- ・ 現在の委託計画完全実施後に予測される指定管理者制度を受身でなく、主導的に対応できる可能性
- ・ 図書館協力員の身分保障を長期的に図れる可能性
 - ： 当局の指定管理者制度の提案時に、受身で対応することと比較検討すると明らかになる
- ・ 一般受託NPOの最大の問題点である長期的保証においても有利

しかし、当然のことながら、いろいろな問題点や不安項目があります。

- ・ 図書館協力員の待遇が、現状を保てるのか
- ・ 区の雇用だから働いているのであり、NPOで苦勞したくはないとの意向はないか
- ・ 形ばかりの協働で、体のよい行政からの丸投げにならないか
- ・ これを機に、指定管理者制度を呼び込んでしまわないか
- ・ 図書館に愛着と意欲をもつ常勤職員の居場所がなくならないか

だからこそ、十分な当事者の検討と準備の時間が必要となりますが、今回は、時間的に緊急判断を求められる状況でした。

このなげかけに協力員労組の意向は次のようなものでした。

- ・ 「退職不補充」の言葉ははずさせ、一応雇用確保ができた現時点で退職をして、決して今の協力員よりも安定しているとは考えにくいNPOに移るということは考えられない
- ・ 協力員組合としてNPOを立ち上げることは想定していない
 - ： 全員が首を切られた中野区とは状況が違う

よりよい練馬区の図書館をつくる会は、委託化に「待った」をかけました。図書館前で区常勤職員、図書館協力員のみなさんとともに、利用者に署名を訴えました。この絆を私は強く感じています。練馬区の図書館を充実発展させる仲間なのだという絆です。

「捨身の一手」構想をめぐる協力員労組の意向をうかがい、状況からは当然との理解と、捨身の一手が私たちの手からすりぬけていく残念な思いとが交錯しました。

よりよい会としては、来年度にむけて、まさに、どうしたら利用者の要求を図書館職員に伝え、サービスの改悪、低下をふせぐかを検討しなければならないと考えます。

時代は市民に図書館の必要性をますます感じさせています。自覚した個人でありつづけるために図書館はあり、図書館の職員はサービスをするのです。

みなさんはどのようにお考えになりますか。

それにつけても2年後は区長選挙です。

2005年11月8日

よりよい練馬区の図書館をつくる会
事務局長 関 日奈子